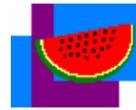


登録団体 活動の広場



高槻にみんなの図書館をつくる会

高槻市にまだ図書館が天神山一館しかしかなかった頃、そして府の自動車文庫が中止された頃、子どもたちの読書離れを心配する大人たちが、高槻にもっと図書館がほしいということで、この会を立ちあげました。他市の図書館見学や講師をまねいての学習会など、市民にとってどんな図書館が必要なのかを勉強しました。今、市内に図書館は5館ありますが、つくる会では10館構想を持って、上牧地域を中心に図書館建設を要望しています。

連絡先: 677-3176 吉田

くらしのなかに図書館を

現在つくる会は、3団体80人が登録し活動しています。施政方針の中に、学校図書館の充実と司書の配備が掲げられていますが、各学校専任の司書が配置されるよう願っています。子どもの本の充実のための子どもセンター（子ども図書館）構想もあります。全市にある35万冊の子どもの本を一堂に集めるのがいいのか、広く地域にあるのがいいのか意見はいろいろです。また、市の図書館協議会が年2回から6回に増えることになり、市民の声が反映されることを期待します。



青少年の健全育成と子育て支援の

「NPO法人るんぴに」

「るんぴに苑」は、青少年の健全育成を図る手段として「るんぴに太鼓」を今から23年前に設立しました。いらい、不登校児、家庭内暴力、校内暴力、いじめ、児童虐待防止などの社会のニーズに応じて、
① 情緒障害児短期治療施設「るんぴに学園」の治療施設運営を行う「社会福祉法人るんぴに苑」
② 子育て支援に注力する「NPO法人るんぴに」
③ 青少年の健全育成に注力する「NPO法人るんぴに太鼓」
などの3つの組織で活動をしています。
高槻・茨木市内では、NPO法人が「るんぴに太鼓」(中高生)、つどいの広場事業「るんぴに広場」「親子ふれあい太鼓教室」、「子ども太鼓教室」「子育て講演会」などの事業を継続的にを行っています。



連絡先: NPO法人るんぴに
副理事長 松尾正隆
Tel 694-9815

新川姫蛭と花を守る会

～新川桜堤の自然をみんなのピオトープに～

この会は、高槻の中心地域に位置する新川桜堤公園の約1km間（芥川左下岸城西橋～芥川大橋間）において、絶滅寸前と言われている「姫蛭」の観察と保護をしながら、四季を通して草花を楽しむことができる新川堤の清掃・草刈・花づくりなどの活動を行っています。姫蛭は今年約80匹ほどが可愛い光で飛び交いました。みんなで見守ってください。
新川堤には、春のさくら(約150本)をはじめ、芝桜・ひまわり・ハス、秋のコスモス、冬のスイセンなど多くの花が咲きます。また、せみ・トンボなどの昆虫や、時には、メジロ・かわせみ・うぐいすなどのバードウォッチングも楽しめます。お年寄りから子どもまで、木陰の散歩コースとして、とてもきもちの良い環境です。いろいろな生きものたちを見まもり育てるための活動をこれからも続けていきます。



- ♣ 自然がいっぱいの新川桜堤で癒されながら遊べる「自然の空間」づくりを目指して活動しています。
- * 少しの時間、できることだけでも共に楽しく活動してみませんか。気軽に声をかけてください。
- * 活動日—第1土曜、毎週火曜(活動日以外でも可)
連絡先: (携帯) 090-9045-1769 (高市)

編集後

俳句の歳時記に「梅雨」に関する季語がたくさんあります。梅雨は東アジア特有の気象現象で、この時期日本も東アジアの一員なのだと感じます。事務所では先日蟬の初鳴きを聞きました。サポートセンターは役員が変わり、少しづつではありますが、新しい活動が生まれています。ホームページやニュースレターなど情報発信のあり方を考え、たくさんの人に関心を持ってもらえるような、魅力ある企画をめざします。 衣川

高槻市市民公益活動サポートセンターニュース

e-mail:koueki-suport1504@aurora.ocn.ne.jp

http://www.takatsuki-kouekisuport.com/

発行 2007年(平成19)7月15日
高槻市市民公益活動サポートセンター
住所 〒569-0056 高槻市城南町3-1-1
西大冠小学校内
電話 072-674-3400
Fax 072-674-3401

5年目を迎え、体制も新たに出発



＝管理運営委員長に白石氏／正会員も運営に参画＝

5/19 サポートセンターの管理運営委員会総会がサポートセンター会議室で開催され、2月に改定された「規約」にのっとり、新たな事業計画・予算、それを執行していく新役員が選出されました。今回からは、登録会員が「正会員」もしくは「利用会員」のどちらかを選択し、正会員が今後の運営に参画することになりました。

今年度の主な事業計画は

- 情報収集発信の充実
- ニュースレター・HPの充実、助成金情報など学習機会の提供
- 会計・広報・助成金などの講座の開催
- 行政との連携促進
- 行政との分野別交流の開催、まちづくり塾への協力 など
- 団体の運営支援
- 人材育成
- ボランティアの養成・組織化
- 受託事業
- シニア社会活動マッチング事業

新役員

- 管理運営委員会委員長
白石 盛彬(こだま会)
- 管理運営委員会副委員長
江畑庄一郎(街かどアライブ西冠)
山本外志子(三島子ども文化ステーション)
- 管理運営委員会会計
山本 洋子(高槻の高齢社会を考える会)
- センター長
宮津 昭(ボランティアグループ阿武野)
- 常任委員
今宮理乃・坂田朱美・坂本孝信・島貴清司
遠矢家永子・日比 徹・松尾正隆・矢形律子
- 会計検査委員
大岡成一・萩原義明

NPOをもっと市民に
アピールしたい・・・



第3回たかつきNPO
協働フェスタは12/1に

・NPO(市民公益活動)を市民に知ってもらいたい
・NPO同士もっと交流したい
・行政と市民の協働事業を活発にしたい
そんな思いで始まった「たかつきNPO協働フェスタ」も3回目を迎えました。実行委員長には遠矢家永子さん(サポートセンター常任委員)が再任、事務局はサポートセンターが引き受けることになりました。
第1回目のフェスタは、個々の団体がそれぞれのブースを持ちアピールしました。前回は参加団体が増え、分野ごとのまとまりをと6つの「ジャンル」に分かれての展示になり、そのことが団体間の交流を生みました。今回は、個々の団体を大切にしながらも、新しいフェスタを作り上げようと、前回とは違う新しい展示方法を模索し、実行委員・企画委員が会議を重ねています。企画会議に若い委員の参加もあり、今までにない発想を期待するところです。12月に向けて、これから討議が続きます。

目次

- 1面 管理運営委員会総会・フェスタ
- 2～3面 登録団体の活動現場から
「福祉ボランティアと演芸活動」
- 2面 19年度市協働活性化モデル事業採択
- 4面 登録団体紹介

19年度協働活性化モデル事業



4事業を採択

今年度で3年目を迎え、応募は6団体、うち4団体の提案が採択されました。この協働活性化モデル事業は、提案団体だけで完結するのではなく、行政とどう協働して実現するのかポイント。採択された4事業はそれぞれジャンルも異なり、多岐にわたり、取り組みが期待されます。
*は行政の関係課

「かけがえのない命」についての出前授業の実施

...<NPO法人SEAN>...

昨今、思春期子どもたちには特に、一人ひとりが「かけがえのない命」を継承している存在であることを教育することが不可欠になっている。教員研修、中学生を対象とした出前授業やアンケート調査などを実施するもの。
*(教育)指導課・教育センター

地域力発掘！「子育て支援スタッフ」養成講座

...<NPO法人三島子ども文化ステーション>...

核家族・少子化が進む中、子育ての悩みを抱える親のために、子育て経験を生かした大人の力が必要である。地域で活動する子育てのサポーターを育成し、その人材活用のため講座を開催する。子育て支援の現状を把握し、行政と解決方法を見出していく。
*子育て総合支援センター

小学校の校歌を遺そう

...<NPO法人高槻ブロードキャスト>...

在校生はもちろん、卒業した方の懐かしい思い出を通して、社会活動が活発になり、「高槻は文化の華を咲かすまち」へとつながることが期待される。ブロードキャストが運営するコミュニティラジオ局「Radio171」より配信する。
*(教育)指導課

演芸ボランティアのネットワーク事業

...<民謡「松の会」>...

それぞれが単独で活動している演芸ボランティアの団体が、ネットワークをつくることで、単独で高齢者施設などを訪問するよりも、多彩な演芸を利用者に提供できる。またボランティア団体同士が、交流を通じて研鑽しあい、技術の向上をはかることが期待できる。
*高齢福祉課

シリーズ:市民公益活動の現場から・第6回「福祉・文化ボランティア活動」(その2)

社会とのつながりを求めて・・・楽しい時間を共有したい



前回は引き続き、文化・芸能面での技を、福祉施設や高齢者団体などで披露している「福祉・文化ボランティア活動」を取り上げます。今回は、3月に実施した交流会に先立って、協力をお願いしていたアンケートへのお答えを中心に紹介します。

報告

福祉・文化ボランティア活動 一問一答 アンケートが

Q: どんなどころに訪問していますか？

多くのグループが、デイサービス、老人ホームなどの高齢者施設や、老人会の行事や独居老人対象の食事サービス会などを訪問しています。中には、病院、図書館などで活動しているグループもあります。幼稚園、保育所、学童保育、子ども会などを訪問したり、小学校の授業支援にかかわっているグループもあります。

Q: どのくらいの頻度で訪問していますか？

多いグループで1ヶ月に10回くらい、少ない団体では、年間1~2回程度です。

Q: 訪問依頼の経路は？

事業所等から直接依頼を受けたり、仲介者を通して依頼を受けることがほとんどです。ボランティアセンターに登録しているグループでは、そちらから紹介を受けることもあります。中には、自ら売り込みをして活動の場を広げているグループもあります。

Q: どんなどきにやりがいを感じますか？

いっしょに楽しむ雰囲気、笑い、手拍子、また来てねの言葉。少しでもやる気を出してくださった時。スタッフとの間になごやかさが生じたとき。喜んでおられることが感じられたら充分。いい加減に歌っては自分たちも面白くないし、聞いていただく方々に失礼になると思う。キチンと練習し、最善を尽くす。感動を共有できたときは最高の感激。

男声合唱団コールバックス



毎週1回、2~3時間程度の練習をしています。男声合唱がもつ独特の響き・魅力を伝えたい。曲のメッセージを聴衆に届けたい合唱団を目指しています。

Q: 団体としての活動のきっかけは何ですか？

子どもが幼稚園に通っていた時、母親の活動として始めた。個々人のスタートは異なるが、団体としてのスタートは、サポートセンターの後押しで。稽古して人前で演ずるだけの自己満足で終わらず、社会との接点を見つけようと始めた。大阪府シルバーアドバイザーの修了・認定後、団体を立ち上げた。音楽を通じて団員相互の親睦を図り、市民と楽しさを共有できる環境づくりに寄与することを団体の目的と定めている。

Q: 悩みや問題点はありますか？

スケジュールの調整 荷物など先方までの移動手段の確保 メンバーの高齢化 活動の場所が少ない 交通費をいただきたい 手持ちの能力で今は通用しているが、いつまでも続くわけではなく、自分の能力をいかに高めるかが問題 大勢の団員が集まれば10人十色。異なる意見を検討していくところに進歩向上があると思ってやっている。

Q: 今後どんな活動を展開していきたいですか？

子どもたちを相手にボランティア活動をひろげたい。初心者から熟練した人まで、いろいろな団員を多く集めて、高いレベルの魅力ある演奏を目指す。ボランティア側の能力を高めることが必要。施設や団体が、どのような演芸ボランティア活動団体があるのかを知らないのが現状だと思う。施設や団体と演芸ボランティアを結ぶ「演芸ボランティアフェスティバル」を年に1回くらい開催して、PRしていければよいと思う。

メルヘングルーポ



絵本を使わず、語りによって物語の世界を伝える「素ばなし」のグループ。聴く人は、耳を傾けながら、自由で豊かな想像の世界をくりひろげることができる。

取材に協力いただいた団体の連絡先

あそび塾(折り紙・工作など)	672-5056
SAひまわり21(演芸・健康体操など)	682-2738
福祉演芸活動「おもちゃ箱」 (歌謡・腹話術など)	695-4082
高槻島本人形劇連絡会(人形劇など)	675-8681
男声合唱団コールバックス(男声合唱)	692-0650
民謡「松の会」(民謡・三味線など)	090-4280-6277
メルヘングルーポ(素ばなし)	681-6391

福祉演芸活動「おもちゃ箱」



歌謡ショーにバラエティショー、多彩な演芸の「おもちゃ箱」。腹話術の人形「かんちゃん」や「さくらちゃん」は、高槻市内のイベントではすっかりおなじみ。